

2017-B

VI42B

拠出金・基金  
の名称

国際農業研究協議グループ拠出金／国際稲研究所(IRRI)

種 別

イヤマークのみ 一部イヤマーク

【拠出先の国際機関名】国際農業研究協議グループ(CGIAR)／国際稲研究所(IRRI)

【所管官庁担当局課・室名】

農林水産省大臣官房国際部海外投資・協力グループ／農林水産技術会議事務局国際研究官室

【当該任意拠出金の目的・用途等】

途上国農家が実施可能で、農業生産環境の変化に適応した持続的な農業栽培技術を開発するための研究開発を支援する。

【最近3年間の我が国支払額及びODA率】

単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千 )	レ ー ト	ODA率(%)
平成29年度	16,900	154	-	1米ドル=110円	100
平成28年度	20,055	167	-	1米ドル=120円	100
平成27年度	22,134	201	-	1米ドル=110円	100

【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】

IRRIはCGIARに属する研究機関であり、貧困と飢餓を減少させ、稲作農家と消費者の健康状態を改善し、環境と調和した持続的なコメ生産を実現することを目的とする。

従来から邦人専門家が滞在して共同研究を実施、節水栽培に適した品種改良、栽培技術開発等の成果を挙げている。また、稲の豊富な遺伝資源を有するIRRIは世界の稲研究の中心的な役割を果たしており、稲に関する研究蓄積を有する我が国と連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展に貢献している。

近年、地球規模の気候変動により、農業生産環境が大きく変化しており、気候変動に適応した栽培技術が求められている。中でも、世界の水田面積の約4割を占める天水稲作は、気候変動に対し非常に脆弱であるため、世界の食料安全保障を確保する上で、天水稲作における安定生産・増産が求められている。このため、我が国のIRRIへの拠出金により、我が国の栽培技術や優良水稲を用い、気候変動条件に適したイネの品種及び気象予測モデルを用いた栽培管理手法を開発し、組み合わせることで、小農が利用可能な水稲栽培システムを構築するための研究開発を実施しており、その意義は極めて大きい。

【備考】